

国立大学法人 九州大学

1. 整備組織名 知的財産本部

2. 大学からの報告

(1) 当初計画（大学知的財産本部整備事業）

- ① 九州大学における産学連携推進活動の一元的最重要組織として知的財産本部を整備し、技術移転等の狭義の知財創出・管理・活用に留まらず、共同研究コーディネイト、起業支援、国際産学連携等、広く産学連携全般を扱う総合的ワンストップサービス機関を目指す。また研究成果を社会に還元すると同時に、社会のニーズを開拓し研究現場に伝えて、研究活性化・研究環境向上を図る等、地域・社会・産業界とのインターフェイスの役割を果たす。
- ② ビジネス経験のある人材の積極登用やビジネス界出身学内教員の応援体制確保等により、プロフェッショナル性を徹底し、大学と地域・産業界等との円滑な連携を実現する。
- ③ アジア重視という九州大学の戦略に沿い、アジアを中心とした国際産学連携を推進する。
- ④ 芸術工学（感性と技術の融合）という特色を生かすため、デザインに関する専門部門を知財本部内に設け、地域と連携してアジア DLO (Asia Design Licensing Office) を設置する。

(2) 自己評価

産学連携窓口一元化、リーダーシップ強化等の当初の制度設計と、学内外ステークホルダーに対する顧客志向の運営原則徹底が功を奏し、過去約5年の九州大学の知的財産本部整備事業は、予想以上に大きな成果を挙げ成功裏に終わったと自己評価している。即ち九州大学知財本部は、技術移転や共同研究支援等の狭義の産学連携実績は勿論のこと、地域貢献や国際貢献、知財・産学連携関連教育等、学内外からの広範な産学連携関連ニーズに対する実績においても大きな成果を挙げている。

また“組織対応型連携”、“有体物管理センター”等、他大学にない先進的な仕組みにも果敢に取り組み、他大学のモデルになったと自負している。「知財本部の使命は、大学の全ての経営資源を駆使して社会と大学に貢献すること、大学改革のフロントになること」と意識し行動してきた過去の活動は、学内で少しずつ評価・理解されつつあるが、今後も一層の努力を傾注したい。

3. 審査・評価小委員会における評価

<評定要素> (平均点)

① 3. 9点	② 3. 6点	③ 3. 3点	④ 3. 1点	⑤ 3. 3点
---------	---------	---------	---------	---------

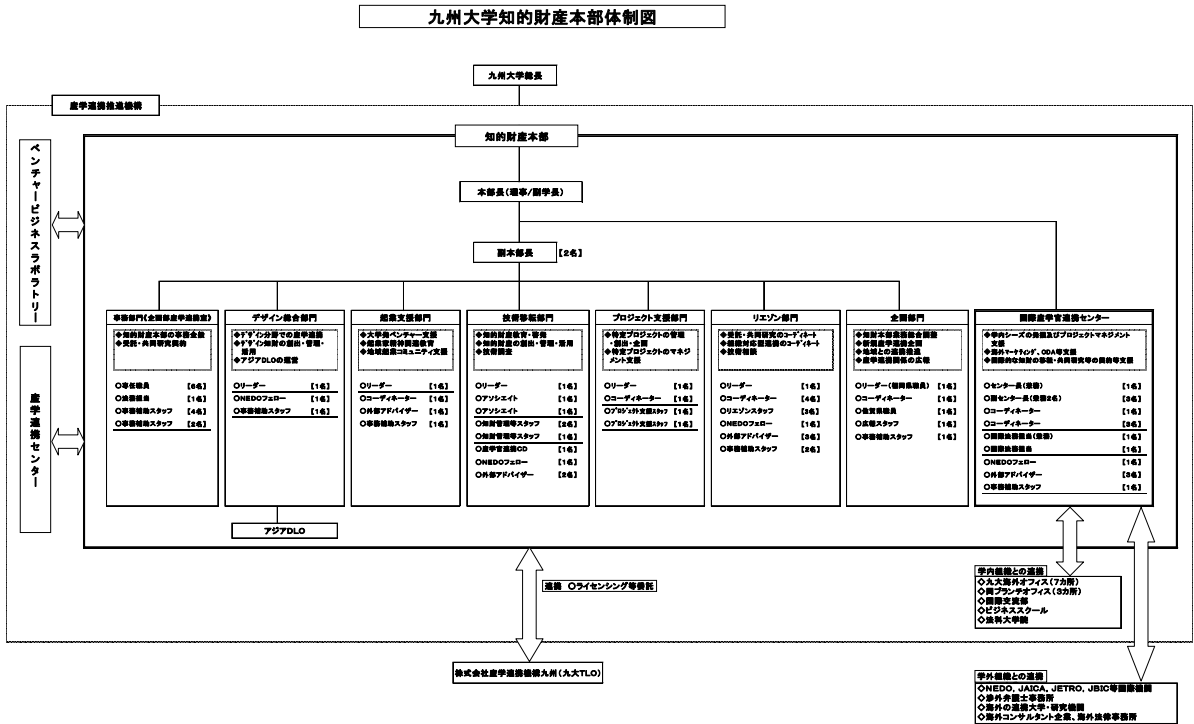
<コメント>

全学的な体制整備に加え、組織対応型連携等の産学官連携の新たな仕組みを創出し実践するとともに、特許出願件数、共同研究件数などは目標を大幅に上回っており、ライセンス等収入も着実に伸びている。特に、OJTによる若手人材育成を明確にして実践している点は評価できる。

ただし、知的財産本部関係者が60人超という組織は大学規模からして多少多すぎる感があり、長期的には人件費が固定費として圧迫してくることから、必要に応じて人件費を減らすための組織のスリム化についても検討する必要がある。また、特許取得件数が目標を下回っている点や、大学発ベンチャー創出件数は、目標に届いていないことは課題として残った。

今後は、国際の業務と国内の業務のバランス、シナジーを模索することが必要であり、他部局との連携強化や、異なるキャンパス、分野の状況に対応できる現場主義の実践を期待する。

◎事業終了時の体制図（平成20年3月時点）



◎成果事例

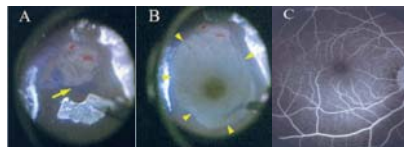
白内障手術・硝子体手術補助剤の開発

九州大学 知的財産本部

要約

九州大学医学研究院（眼科）で発見された硝子体手術補助剤を大学知的財産本部が権利化を行い、大学発ベンチャーであるアキュメンバイオフーマ（株）に技術移転した。本技術は、白内障手術や硝子体手術時に眼内の境界膜を染色する技術で、従来品と比較して安全かつ簡便に使用できる。現在、米国で臨床試験のフェーズⅢを実施中であるほか、日本でも臨床試験フェーズⅡに向けて準備を行っており、2009年頃の米国での市販が予定されている。

サル眼を用いたBrilliant Blue Gの有効性及び安全性評価結果



A. サル眼の網膜から染色した内境界膜を剥離している術中の写真。
B. Brilliant Blue Gを用いてサル眼の網膜から染色した内境界膜の剥離を無事完了した。
C. Brilliant Blue G投与後にfluorescein angiographyという方法で安全性が確認できた。

創出

管理

活用

産学連携のきっかけ（マッチング）

眼科医師であり発明者でもあるアキュメンバイオフーマ（株）社長の鍵本氏が本技術の有効性に着目し、知的財産本部と連携して迅速な権利化を図った。

知財管理（特許化、知財保護）

●特許取得：国内1件、海外6件
「Preclinical Investigation of Brilliant Blue G as a potential new staining solution for membrane peeling」

技術移転の概要

●技術への貢献
従来より白内障手術と硝子体手術を安全で簡便に行うことができる、染色剤を発見することに成功。硝子体手術の内境界膜剥離などの難易度の極めて高い手術を容易にできる革新的な染色剤となる。

●市場への貢献

現在、同じ用途で承認された医薬品は国内に本剤の当局からの販売承認は眼科医から待ち望まれている。本製品の年間売り上げは、国内で約10億円、米国で約40億円になると予想される。

●社会への貢献

現在、国内で白内障手術や硝子体手術（内境界膜剥離）時に眼内の膜を安全かつ簡単に染色できる薬剤は承認されていない。また、米国と欧州では同じ用途で他の染色剤が承認されているが、安全性と簡便性が低く、より良い薬剤の必要性が学会等で報告されている。本薬剤は、これら既存品を凌ぐ安全性と簡便性があることから、世界中の眼科手術をより安全でより効果的なものにする事ができる。

共同研究

九州大学医学部眼科学教室とアキュメンバイオフーマはBrilliant Blue Gの安全性及び有効性について研究を行った。

連携機関

- 九州大学医学部眼科学教室 教授 石橋達朗
- アキュメンバイオフーマ(株)代表取締役社長兼CEO 鍵本忠尚
- 九州大学知的財産本部技術移転グループリーダー 高田 仁

受賞歴

実施料等収入の種別

実施料等収入（累計）

実施料収入（一時金、ランニング） 一時金として新株予約券(個数は非公開)